

京都府生協連ニュース

<第59回通常総会特集>

2012年8月15日・No.82(通算148号)

京都府生活協同組合連合会

京都市中京区烏丸夷川東南角せいきょう会館2階

TEL. 075-251-1551

FAX. 075-251-1555

第59回通常総会開催

～全議案を可決・承認、総会アピールを採択～

6月19日(火)、池坊学園洗心館6階で開催



<ご来賓からご祝辞をいただきました>



京都府山田啓二知事代理
京都府府民生活部副部長 梅原 豊さん



京都労働者福祉協議会
会長 細田一三さん

京都府生協連第59回通常総会報告

6月19日(火)午後1時30分より、池坊学園洗心館6階第1会議室で、京都府生活協同組合連合会第59回通常総会を開催しました。

総会の代議員総数は43人で、当日は本人出席29人、委任出席5人、書面出席8人でした。

来賓および理事・監事・オブザーバーあわせて、80人が参加しました。

小林智子会長理事が開会のあいさつをのべ、つづいてご来賓の京都府府民生活部副部長・梅原豊さん(京都府山田啓二知事代理)、京都労働者福祉協議会会長・細田一三さんから、ご祝辞をいただきました。

オブザーバーとして、日本生協連関西地連事務局・小川哲さんはじめ、11人が参加しました。地元選出の国会

議員、各関係団体、各生協などからいただいた81通の祝電・メッセージを坂本茂専務補佐・事務局長(兼務)がご紹介しました。

第1号・第4号・第5号議案を坂本茂専務補佐・事務局長(兼務)が提案し、毛利雅彦監事が監査報告をおこないました。第2号・第3号議案を中森一朗副会長理事が提案しました。10人の代議員から発言がありました。

さいごに、総会アピール「2012年は国際協同組合年です。いまこそ、持続可能な社会の実現にむけて、協同組合の力を結集していきましょう!」を採択しました。

総会後に開催された第1回理事会で互選により、新会長理事に上掛利博(かみかけ としひろ)氏、新専務理事に横山治生(よこやま はるお)氏が就任しました。



就任のあいさつをのべる
上掛利博 新会長理事



就任のあいさつをのべる
横山治生 新専務理事

<祝電・メッセージをお寄せいただいた方がた> (順不同・敬称略:6月19日現在)

民主党衆議院議員	泉 ケンタ	民主党経済産業大臣政務官衆議院議員	北神 けいろう	民主党衆議院議員	平 智之
民主党衆議院議員	前原 誠司	民主党衆議院議員	山井 和則	民主党参議院議員	福山 哲郎
民主党参議院議員	松井 孝治	自由民主党参議院議員	二之湯 智	日本共産党衆議院議員	こくた 恵二
日本共産党参議院議員	井上 さとし	新党さづな衆議院議員	豊田 潤多郎		
京都市長	門川 大作	京都市社会福祉協議会会長	村井 信夫	京都商工会議所会頭	立石 義雄
京都府農業協同組合中央会会長	中川 泰宏	京都府漁業協同組合連合会代表理事会長	佐々木新一郎	京都府森林組合連合会代表理事会長	梅原 久弘

■全議案が満場一致で可決・承認されました

議案	賛成	反対	保留	合計
第1号議案 2011年度活動報告・決算関係書類等承認の件	41	0	0	41
第2号議案 2012年度方針・活動計画および予算決定の件	41	0	0	41
第3号議案 2012年度役員選任の件	41	0	0	41
第4号議案 2012年度役員報酬限度額決定の件	41	0	0	41
第5号議案 議案決議効力発生の件	41	0	0	41

※出席代議員の合計42人（本人出席29 委任出席5 書面出席8）、うち議長1人は採決に参加せず。

【京都府生協連 2012年度役員体制】（6月30日現在） *は今回、新任

＜会長理事＞ 上掛 利博（員外）*	＜理事＞ 大川 肇（全京都勤労者共済生協専務理事）
＜副会長理事＞ 中森 一郎（京大大学生協専務理事）	小野 留美子（乙訓医療生協専務理事）
大島 芳和（京都生協常務理事）*	勘解由 貢一（やましろ健康医療生協専務理事）*
＜専務理事＞ 横山 治生（員外）*	上総 紫香子（生協生活クラブ京都エル・コープ理事）*
＜常任理事＞ 今西 静生（京都府庁生協専務理事）	鯉迫 裕子（龍谷大学生協専務理事）*
沼澤 明夫（大学生協京都事業連合専務理事）	坂本 真有美（生協コープ自然派京都理事長）*
廣瀬 佳代（員外）	田中 弘（京都医療生協専務理事）
	日岡 豊子（京都生協理事）
	姫野 恭博（京都教育大学生協専務理事）*
	渡辺 明子（京都生協副理事長）
	＜監事＞ 末廣 恭雄（京都府医・府大生協専務理事）*
	湯浅 美恵子（京都生協理事）

【理事・監事を退任されたみなさん】（順不同）

＜理事＞ 小林智子さん・右近裕子さん・大塚正文さん・酒井克彦さん・佐々木郁子さん・高田艶子さん・行松龍美さん
 ＜監事＞ 毛利雅彦さん

【事務局】

専務補佐・事務局長（兼務） 坂本 茂 事務局次長 酒向 直之
 事務局担当 川端 浩子 事務局担当 岡本 朋子 渉外・教育担当 原 強

■10人の代議員から発言がありました。発言要旨を以下に掲載します。

1. 京都生活協同組合 松尾 啓子 代議員 「2011年度の京都生協の特徴的な取組み」



2011年度は東日本大震災による被災地復興のために、①被災地生協の事業再開にむけた人員派遣と物資の輸送、被災地産品の取扱い、②ボランティア組織による現地での炊出しや漁港の復興作業、

生協店舗での朝市や復興支援フリーマーケットの開催、③震災支援募金（6,300万円をこえました）に取り組みました。

安心してらせるまちづくりにむけて、京都府中丹広域振興局・綾部市と協定を結び、配達時の見守り活動をスタートさせました。

産直・地産地消の取組みでは、JAなどと提携して地域限定の野菜ボックスの取扱いをすすめました。

「さくらこめたまご」の取組みは3年目をむかえ、飼料米の作付は3倍に広がりました。養鶏生産者、配合飼料メーカー、京都府などとの連携も発展しました。供給高も前年を上回る実績となりました。

今年は国際協同組合年です。協同組合の価値や役割について、広く府民にアピールしていく取組みをすすめます。

2. 生活協同組合生活クラブ京都エル・コープ 二宮 千明紀 代議員 「放射能と私たちの暮らし～東日本大震災以降 脱原発にむけての取組み～」



募金活動は2回の呼びかけで、613万円をこえる額となりました。被災地に向くボランティア活動はむずかしいという声にこたえ、福島のみなさんにこちらに来て気分転換してもらえる企画「福島の子どもたちリフレッシュツアー」を催行

しました。

全国1000万人アクションに取り組み、5,230筆の署名が集まりました。6月と9月に小林圭二・元京都大学原子炉実験所講師による学習会を開催しました。組合員による放射能学習会は15カ所開催できま

した。2月には「ミツバチの羽音と地球の回転」の自主上映会をおこないました。「もんじゅ現地集会」や「バイバイ原発京都パレード&デモ」へも参加しました。

組合員アンケートや地区の声をうけ、放射能検査検討チームを設けて、汚染状況や放射能の実態を把握し、検査のあり方について検討しました。原発事故を考える自主委員会にはメーリングリストに32人が登録し、情報交換をしています。

「連合会自主管理委員会」では、専門チームを設置し、独自の自主基準について検討が重ねられました。組合員と生産者がともに管理する自主基準の暫定運用を開始しながら、組合員討議をおこなっています。

3. 生活協同組合コープ自然派京都 栗林 眞知子 代議員 「2011年度食育の取組み」



生協の活動はすべてが食育活動といえます。商品の流通・品質保持などを知るために、神戸にあるセットセンター見学に取り組みました。たくさんの方の手と、働く人たちの思いやご苦労を知ることができ、感謝の気持ちをあらたにしました。

有機野菜学習会では、循環型農業の意義や重要性、日本の農業の現状と市販野菜との違い、野菜ができるまでを学ぶことができました。初めて生で試食した菊菜がとても美味でした。しいたけ学習会で、き

のこ類は放射性物質を取り込みやすい性質をもっている」と知り、安心して食べることができる環境を守りたいと思いました。

恒例の手作りみそ講習会や機械を使わず手作業のみによる田んぼ作りも取り組むことができました。若いお母さんたちの自主的な企画は、食にかんすることが多く、放射能にかんすることもふくめ、食が体をつくり、健康のカナメになることが広く浸透してきました。

今年度も親子で食を楽しみ、考えることができる食育の取組みをたくさん企画していきたいと思っています。



4. 京都大学生協同組合 森下 奈津 代議員 「ミールシステムで健康的な食生活を」



仕送り前になると朝食・昼食を欠食する学生がいます。朝・昼・晩3食食べたとしても、炭水化物のオンパレード。大量に作って毎日同じものを食べているという学生もあり、バランスのよい食生活とはかけ離れて

いる実態があります。

そのような食生活を改善するために、「食の定期券」であるミールシステムで、健康的な食生活を応援しています。ミールシステムは、事前に1年分の食費をまとめて支払うことで、1日の利用上限内で

期間内は自由に食事ができるシステムです。1食500円と2食900円の2タイプがあります。利用している学生に聞くと「食費が確保できているので、ちゃんと食べる習慣がついた」「お金を気にしなくてもよいので、栄養バランスを考えて食事ができる」という感想が出されています。ミールシステムは、「いつに」「どこで」「何を」食べたのかわかるので、希望する親御さんに毎月利用履歴を送ることができ、喜ばれています。

大学を卒業すると食育にふれる機会が少なくなるので、学生時代に健康的な食生活ができるよう、これからも生協での利用者を増やし、バックアップしていきたいと思っています。

5. 同志社生活協同組合 五藤 実 代議員 「2013年度同志社今出川における新店舗の展開プラン」



2013年4月、京田辺キャンパスから文系学部の約8,000人が今出川キャンパスに移転してきます。それともない、生協が大学から今出川キャンパスの福利厚生施設の運営業務を受託することになりました。

新しい施設は、食堂480席、コンビニ68.6坪（現状の1.8倍）、書籍143坪（同1.9倍）、文具等のショップ26.2坪（同0.9倍）、旅行サービス・組合員センター46.1坪（同3.5倍）となります。今出川新棟の完成は2012年10月末を

予定しており、それにむけたオープン準備をすすめています（物販系店舗は11月5日、食堂系店舗の1階ベーカリーカフェは11月26日、地下1階カフェテリアは12月3日オープン予定）。

現在、同志社生協は経営再建中です。2010年～2012年の経営再建計画は、1年早く数値目標を達成することができました。

2012年以降の経営課題として、今出川キャンパスでの1億円をこえる設備投資による負担と京田辺キャンパスの再整備があります。

このため、経営再建計画前に逆戻りしかねない状況であり、これからが正念場になると気をひきしめているところです。

6. 京都府立医科大学・府立大学生協同組合 千種 浩香 代議員 「京丹後農村体験ツアーの取組み——交流から生まれた『大学京あられ』誕生物語」



京都府内の農林漁業の発展・振興を願って、地産地消・生産者との交流や商品事業をすすめています。これまでも、京丹後市産コシヒカリ（特A認定）を使い、医科大学生協のカフェテリア・ポレポレや弁当のごはん等で供給し、「おいしいごはん」との評価をう

けています。今回開発した「大学京あられ」は、毎年、

農村体験ツアーでお世話になっている京丹後市久美浜町「エチエ農産」で特別栽培米としてつくられた「もち米（新羽二重）」を原料にし、京丹後市峰山町の老舗「小野甚」の本醸造たまり醤油「かけむらさき」を使い、京都のあられ老舗メーカー「鳴海屋」で昔ながらの製法により香ばしく焼き上げたものです。

包材の「銘」は府立大学学長渡辺信一郎先生による書で、「落款」は医科大学名誉教授の森本武利先生に彫っていただきました。

7. 京都医療生活協同組合 あざみ 祥子 代議員
「今年は国際協同組合年、組合員を増やします」



生協は組合員によって支えられています。しかし、ここ数年、組合員の加入は滞り、低迷していました。患者の50%以上は組合員であることなどをもとめる生協法改正もあり、職員が積極的に組合員加入をすすめる運動

をはじめました。2010年は1,044人、2011年は1,311人の組合員が増え、総勢1万8,569人の組合員で今年の総代会をむかえることができました。

今年は「何かあったら京都医療生協にかけこみます。しかし、元気な時は、地域医療のとりでとしての、親切で最高の技術をもった診療所をつくり、支える組合員を増やす」ことを決意しました。

組合員拡大では、職員が一番成長したように思います。生協への加入をすすめるためには、生協とは何か、自分たちはそのために、どんなことをしているかを説明しなければなりません。加入をすすめることで京都医療生協で働く職員であることにさらなる自信をもったと思います。今年は国際協同組合年です。組合員拡大をとおして協同組合の精神を学び実践しながら、組合員とともに成長していきます。

8. 乙訓医療生活協同組合 三宅 美幸 代議員
「みんなでつくる文化のつどい」



乙訓医療生協では年々、サークル活動が活発になっています。「お互いを知りあい、深めあう絆」をスローガンに、班・サークル交流会「みんな

でつくる文化のつどい」を開催しました。「日常の活動を発表し、交流する」「班・サークルをさらに発展させ、仲間をふやす」の2つを獲得目標にしました。2班、28サークル、12人の組合員から展示・発表がありました。来場者は2日間で260人となりました。

1日目は、小物、書道、フラワーアレンジメントの各サークルからの展示にくわえ、班・サークル活動を紹介するコーナーも設けました。

2日目は、囲碁・麻雀・絵手紙・社交ダンス・お父さんコーラス・自彊術・トーンチャイムの展示・発表・交流や喫茶コーナーも設け、好評でした。

この取組みをとおして、2人の組合員が増え、1万4,000円の増資がありました。

会場が狭く、展示や発表に課題がありましたが、継続開催の要望もあり、文化活動の大切さを感じた取組みとなりました。



9. やましろ健康医療生活協同組合 福田 崇 代議員
『保険でよりよい歯科医療』実現をめざす運動に取り組んで』



歯科治療は「いのちに関わらないので、痛くなるまで行くことがない」「忙しくて行けない」「お金の余裕がない」などで敬遠されています。治療の技術は進歩しているが、保険で認められているのはあくまでも最低限というのが現状です。低くおさえられた診療報酬により、歯科医院の経営を圧迫しています。国民の声は、保険適用範囲の拡充です。

よく噛んで食べることで認知症の予防になります。糖尿病と歯周病も深いかわりがあります。よりよ

く食べることは、よりよく生きることに繋がります。

全国で取り組んできた国会請願署名については、受付や診療所で訴えました。総代会の場でもお願いしました。患者宅の訪問や健康相談会・医療懇談会など、組合員に依拠した活動を展開してきました。京都駅前での署名宣伝活動では、100筆以上集まりました。全国で14万筆、京都で5,800筆の署名が集まり、医師・衛生士から直接、国会議員に手渡しました。

今年4月の診療報酬の改定では20年以上にわたって据え置かれていた技術料の引上げやインプラント治療などの先進医療の一部が保険で可能になりました。運動をすすめてきたことの反映です。

10. 京都府庁生活協同組合 波多野 隆幸 代議員
『食の安心・安全～府庁生協の取組み～』



府庁生協では毎年、夏と冬に地産地消フェアを開催しています。お取引先みなさんに協力していただき、地産地消の野菜・お肉・お魚を使った料理を組合員に食べてもらい、理解をすすめています。

八木町にある農山村高齢者活性化ボランティアグループから野菜を仕入れています。府庁生協の弁当には、そのグループから仕入れた旬の野菜を極力使うように心がけています。

職員のところでは作業効率の面からはたいへんになっていますが、地元のおいしい旬の野菜を組合員に少しでも食べてもらうことが喜びにつながっています。

生産者グループの方からは、「地産地消の『消』は、商売の『商』だ。地元で商売されている八百屋、魚屋、卸業者の方たちが元気にならないと地産地消は成り立たない」と教えてもらいました。

きびしい経営状況がつづいていますが、きびしいからといって、これまで大事にしてきた地産地消の方向を変えるのではなく、これからも地産地消を大事にして、何か新しい取組みができればよいと考えています。



■総会アピールを採択しました

廣瀬佳代常任理事が総会アピールについて提案し、拍手で確認しました。

京都府生活協同組合連合会第 59 回通常総会アピール

2012 年は国際協同組合年です。

いまこそ、持続可能な社会の実現にむけて、協同組合の力を結集していきましょう！

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災と原子力発電事故から、1 年あまりが経過しました。私たちは 3.11 を忘れることなく、ふかく心に刻んで、全国の生協とともに被災地の生活再建と地域復興にむけてひきつづき支援をおこなっていく決意です。

国政においては、TPP（環太平洋連携協定）問題、原子力・エネルギー問題、消費税問題など、こんごの国のあり方に大きな影響をあたえる諸課題が拙速にすすめられようとしています。「健全な生活環境が確保される権利」「必要な情報が提供される権利」など、消費者基本法にも規定されている「消費者の権利」の視点に立ったすすめ方・国民合意を形成していく努力が必要と考えます。

地域経済の低迷・空洞化がすすみ、高齢化などに対応した社会保障への不安がつのる現状があるなかで、21 世紀社会の課題にかんしての意見の相違をはらみつつも、いま、暮らしのあり方について国民一人ひとりの真剣な見直しがはじまっています。原子力発電事故を契機にエネルギー大量消費を土台とするライフスタイルの転換も急速です。私たちは消費者・地域住民による協同の組織として、組合員が学びあい、考えあって、みずからの暮らしをよりよいものに変えていくという視点を大切に、生活協同組合の事業・運営をすすめていきます。

世界では、あいつぐ大規模自然災害、金融・経済危機、食料不足・価格高騰などのなかで、貧困と格差が増大しています。このようななかで、協同組合が地域に根ざし、人と人との助け合いを基礎とする活動をすすめることによって、生活の向上と地域社会の安定に貢献していることが広く認められるようになってきました。国連は 2012 年を「国際協同組合年」と定め、協同組合の価値・理念・仕組みについての社会的認知度を高めることをよびかけています。持続可能な社会の実現をめざすうえでは、協同組合の発展がかかせません。

京都府内では、農業・林業・漁業にかかわる協同組合、商品の加工・製造にかかわる協同組合、信用事業にかかわる協同組合など、多くの協同組合組織が重要な役割をはたしています。生活協同組合においても、地域・大学・職域・医療・共済など多くの分野で旺盛な事業と活動を展開しており、地域社会に不可欠な担い手となっています。地域社会が直面している共通の課題の解決のために、行政・地域諸団体との連携をよりすすめ、その過程で協同組合としてのあらたな活動領域を創出していくことがつよく期待されています。互いの活動から学びあい、人と人とのつながりを大切にし、交流をつよめるなかで、協同組合としての力を結集して、「協同組合がよりよい社会を築きます」の実践をより豊かなものにしていこうではありませんか。

京都府生活協同組合連合会は、府内における 20 会員生協の連合組織として、その役割を発揮し、府内外の期待に力づくこたえていきます。

2012 年 6 月 19 日

京都府生活協同組合連合会